

侵入特定外来生物バスターズの立ち上げ

1 ヒアリなど3種を対象にバスターズを結成

流通のグローバル化などにより侵略的外来種の侵入リスクが高まる中、京都府では侵入初期の防除を徹底することを目的とし、積極的なモニタリングによる早期発見、迅速な初期防除を実施するための「侵入特定外来生物バスターズ」を平成30年5月に立ち上げました。

本事業では、特定外来生物に指定された種または指定が検討されている種で、人体または経済への影響が大きい種として、ヒアリ、オオバナミズキンバイ、クビアカツヤカミキリの3種を対象とすることとしました。

2 バスターズ分隊が活動を開始

対象種については、それぞれの特徴や状況に応じて効果的・効率的に対応できるよう、「分隊」を結成しています。

ヒアリについては、確認された場合には緊急の駆除がまず求められるため、行政や専門家に加え、第一発見者となる可能性の高い運輸業関係者を中心に分隊を結成し、確認時の通報・情報共有や緊急防除の体制を構築しました。

また、オオバナミズキンバイについては、すでに淀川水系において侵入が確認されているため、河川をフィールドとする団体や、行政、専門家により分隊を結成し、来夏には鴨川を中心として一斉に防除を行う予定です。

クビアカツヤカミキリは、サクラ、ウメ、モモなどの木を食害する昆虫ですが、これらの木は府内に遍在するため、関係者が極めて多岐にわたります。本種は京都府内では今のところ確認されていませんが、侵入した際に被害が拡大するのを防ぐため、まずは行政や社寺、学校、造園業者などに幅広く周知を徹底し、通報・情報共有の体制を構築、監視を強化していく予定です。

ヒアリ研修会の様子



【対象種3種：ヒアリ、オオバナミズキンバイ、クビアカツヤカミキリ】



©上田昇平



©（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所